

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2017

November
No.1069

11月

表紙

勇足保育所
サツマイモ掘り体験



Pick up

なう。
✿特集 本別高校NOW

✿火災、多発。あなたの家も万全の備えを

✿町スポーツ賞・文化奨励賞・スポーツ奨励賞決定

特集 本別高校NOW

昭和17年、十勝管内2番目の旧制中学校として開校した本別高校（佐藤渉校長、117人）は、今年75周年を迎える歴史と伝統のある学校です。「創意実践」の校訓のもと、「一人ひとりが豊かな心をもち、いきいきと学びつづけるために」を目標とし、教師一丸となって「社会で自立できる生徒」を育成する教育活動を展開しています。



本別高校の今春の入学者は38人。昨年度に続き1学級に止まりました。町教育委員会では直ちに町、本別高校、本別高校の教育を考える会（我妻勇次会長）らとともに、初めて4者会議を開催し、来年度の2学級確保に向けて対策を協議。その後、中学生保護者らに交えた会合も行いました。これらの経過や、町民の皆さん・本別高校を応援する人たちの熱意が通じて、9月に北海道教育委員会が発表した公立高校配置計画では、平成30年度における本別高校の2学級80人募集枠が示されました。



この町に高校があること

全国的に少子化による人口減少が進み、地方の高校では2学級を維持し続けていくことは大変厳しい状況にあります。しかし、高校が生徒一人ひとりの目標やレベルに合わせた教育を行うには、生徒同士が切磋琢磨する環境と、より良い指導を行うための教職員数を保つことが必要であり、今後も2学級の確保が求められます。

生徒が自分たちの将来を見据え、笑顔で学校生活を送り続けることは町の賑わいへとつながっています。町にとって本別高校はなくてはならない存在なのです。地方の拠点校としての歴史と伝統をもつ本別高校は、これまでに多くの優秀な人材を輩出してきており、本別高校が、これからも魅力ある学校であるためには、地域一体となった支援が必要です。

卒業のその先を見据えた教育

本別高校と町、町教育委員会、本別高校の教育を考える会は5月20日、4者協議を開催し、2学級の生徒を確保するための方策として、「これまでの進学や就職の実績をもっと知ってもらおうこと」「卒業後、5年、10年先の将来を見据えたビジョンを示すこと」「音更町や帯広市に通学支援を拡大すること」「中学生が求めている高校であると示せるようにすること」などが意見として出されました。

その後、高校や各中学校はそれぞれ協議を重ね、中学生や保護者へ本別高校の魅力や説明する機会を増やしたほか、部活動の充実に向けた対策を行っています。本別高校では同校をより知ってもらおうと学校案内を冊子化して、内容を充実したほか、ホームページをリニューアルするなど積極的に情報を発信しています。



本別町教育委員会 中野 博文 教育長

本別高校は町にとってかけがえのない存在であり、これからも町民の皆さんや本別高校の教育を考える会、本別高校とスクラムを組んで、全力でサポートしてまいります。



高体連支部大会が5月に行われ、剣道部が団体で準優勝し、全道大会に出場しました。現在、部活動は9運動部、9文化部があり、希望の多い部活動については新設・再編に向け準備しています。



本別高校 佐藤 渉 校長

本別高校では、教職員が生徒一人ひとりの学習状況や希望する進路、部活動、個性までを共有し、教職員みんなで、生徒を育てる体制づくりなど、生徒の長い人生を見据えた人間教育を大切にしています。

スクールライフなう。NOW



本別高校最大の行事は学校祭。中でもパフォーマンスは華やかな手作り衣装でダンス等を披露し、一体感を表現します。



本高進路Quest（クエスト）が今年初めて同校で開催され、大学・短大や専門学校72校が参加して、模擬体験授業や学校別進路ガイダンスが行われました。

中学生もスクールライフを体験

中学3年生を対象にした「本高オープンスクール」が10月10日、同校で開催されました。本別・男足中学校の全3年生のほか浦幌町や陸別町、池田町、土幌町、音更町から10校・86名の生徒が参加。さらに保護者や各中学校教員なども来場しました。生徒らは6グループに分かれて、生物や情報処理などの授業見学や、英単語を並べて文章をつくるグループワークに挑戦。オリエンテーションでは、生徒会から学校行事や部活動が紹介されました。





将来を考える環境づくり

本別高校では総合的な学習の時間を中心に進路学習を行っています。1年生は仕事について体験的に学ぶインターシップを行い、社会貢献の意義を学習。2年生は進路意識を高める講話を通じて、目指す職業や学問の理解を深めます。3年生ではマンツーマンで進路指導が行われるほか、放課後講習や夏期・冬期講習で実力を積み重ねるなど、同校は生徒の将来の選択や、夢の実現に向けて学習環境を整えています。



進路なう。NOW

本高だからできること



進学・就職に強いわけ

- ① 学年全員に専属の指導教員配置
合格・内定まで徹底した個別指導！生徒のやる気にとことん付き合う教師陣。企業からも厚い信頼を得ています。
- ② 模擬試験受験料助成
受験料の1/2を何年度でも助成。看護模試・公務員模試・全国統一模試・総合学力模試、論文模試など28年度は延べ356人が受験。
- ③ 補助教材費支給
生徒全員に国語・数学・英語の教材や、入試問題対策の書籍など、教材購入費を全額補助。28年度は192万7千円を支給。
- ④ すぐに役立つ資格を取得
資格取得検定料の1/2を何年度でも助成。硬筆書写検定、漢字能力検定、実用英語技能検定、日本語ワープロ検定、ニュース時事能力検定など、28年度は延べ295人が受験。



支援なう。NOW

本高だからできること

本別高校生への支援策拡充

町と本別高校の教育を考える会では、本別高校の生徒に次のような支援を実施しています。

- ① 制服購入費の全額補助
- ② 遠距離通学費登校日相当全額補助
- ③ 模擬試験受験料の半額を助成
- ④ 学校で使用する補助教材を全額助成
- ⑤ 資格取得検定料の半額助成
- ⑥ 大学等のオープンキャンパス交通費の一部支給
- ⑦ 部活動支援費を支給
- ⑧ 校外行事のバス代支給

また、学校給食を希望者に提供（平成27年1月より）、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級課程）の無料受講（平成28年度より）、陸別町からの無料直行送迎（平成29年度より）を実施して支援の拡大を進めており、平成30年度には音更町からの直行送迎下宿代助成上限額を6万円引き上げ、町営英語塾開設を予定しています。



本校の会長 勇長 教育を妻会

部活動の支援など、中学生が高校を選ぶときに何を求めているのかを把握し、生徒に本別高校の魅力を示すことができるようにするのが我々の使命であると思っています。



本別高校の学校案内、ホームページでは生徒や教員の豊かな表情を紹介しています。ホームページには楽しい授業風景なども掲載。笑顔あふれる、心温まる学校の様子が伝わります。

問い合わせ

町教育委員会管理課
011-223-1031
011-223-1032
http://www.honbetsu.hokkaido-c.ed.jp/

過去5年の主な進学状況

(数字は人数)

- 〔大学〕小樽商大2、北海道教育大3、帯広畜大1、室蘭工大3、釧路公立大5、立教大3、北海学園大9、北星学園大6、天徳大2、北海道医療大1、藤女子大1、北海道文教大1、札幌保健医療大1、酪農学園大1、札幌学院大2、札幌大2、北翔大2ほか
- 〔短大・準大学〕札幌大谷短大1、武蔵女子短大2、札幌国際短大2、北星学園短大1、光塩学園女子短大2、北翔大短大2、帯広大谷短大5、釧路短大2、北海道農業大1、北海道職業能力開発大1ほか
- 〔専門学校〕
- 〔医療・福祉・保育〕旭川厚生看護1、帯広高等看護5、社会事業帯広看護1、釧路高等看護1、釧路孝仁看護1、釧路医師会看護1、北海道医療大歯科衛生士専門1、吉田学園医療歯科専門4、千歳リハビリテーション1、北海道ハイテクノロジ専門8、札幌こども専門8ほか
- 〔工業・技術〕道立帯広高等技術専門学校1、日本工学院北海道専門4、北海道情報専門2ほか
- 〔調理・衛生〕北海道美容専門6、北海道中央調理専門4、札幌ベルエポック製菓調理専門3、経専調理製菓専門3ほか

立教大学をはじめとする本別高校 指定校推薦枠

- (平成29年7月1日現在)
- 〔大学〕北海道医療大、北海学園大、北海道科学大、北星学園大、酪農学園大、札幌大、北翔大など(道内15校)
 - 立教大、千葉商科大、愛知工業大、東京工芸大、城西大、横浜薬科大、東海大、八戸工業大など(道外22校)
 - 〔短大〕北海道武蔵女子短大、札幌国際短大、北星学園短大など(道内12校)
 - 帝京短大など(道外4校)
 - 〔専門学校〕札幌科学技術専門、産業技術学園、札幌商工会議所付属専門、せいくく介護(こども福祉専門など(道内37校))
 - 日本医科大学など(道外13校)

過去5年の主な就職状況

(数字は人数)

- 〔公務員〕本別町役場10、音更町役場1、陸上自衛隊6、十勝消防2、北海道警察2
- 〔民間企業〕明治3、中札内農協5、本別農協1、木野農協1、浦幌農協1、本別町商工会1、柳川4、北海道ホテル1、帯広信金1、本別町社会福祉協議会2、中前建設1、富士工業1、砂原会計事務所1、本別温泉ランドホテル1、双日北海道与志本1、三洋興熱1、ヤマト運輸1ほか

就職率 100%!

火災、多発。

あなたの家も万全の備えを

自宅をチェック！

整理整頓と
掃除の心掛けで、
火災ゼロへ！

「つい、うっかり一ちよつと目を離したすきに」起こるのが、恐ろしい火災です。「たばこを吸わないから火の元はない」「オール電化住宅だから大丈夫」と思っている人はいませんか。火災は、電気コンセントにたまったホコリや老朽化した電気コードなどから出火する場合もあります。家の周りの整理整頓はもちろん、家庭内の危険がないか、しっかりと確認し、火災発生の恐れがある場所が見つかった場合には、早めに改善しましょう。また、万が一に備えて、住宅用火災警報器を、必ず設置してください。

Point 2 コンセントのホコリとタコ足配線は危険！

- ・冷蔵庫など家具の裏側も掃除する
- ・使用しない電気製品のコンセントは抜く
- ・電気製品のコードを束ねたまま使用しない
- ・古い電気コードは新しいものに交換する
- ・電気コードを家具等の下敷きしない

Point 1 ガスコンロの使用中は、絶対に離れない！

- ・コンロの上にふきんなどを干さない
- ・コンロの周りに燃えやすい物を置かない
- ・古くなったガスホースは使わない
- ・コンロは壁から離して置く
- ・換気扇や壁などは、こまめに掃除する

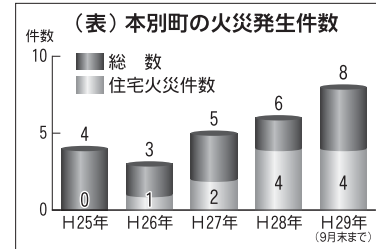
Point 4 洗濯物、カーテンの近くにストーブを置かない！

- ・ストーブの近くにスプレー缶は絶対置かない
- ・部屋に誰もいないときはストーブを消す
- ・石油ストーブの給油は、必ず火を消してから行う
- ・ストーブをつけたまま寝ない
- ・暖房シーズンの前には、点検整備を行う

Point 3 寝たばこは絶対禁止！火が消えたか確認を！

- ・たばこは布団やベットでは絶対吸わない
- ・灰皿には水を入れ、吸い殻はこまめに捨てる
- ・燃えやすい物のそばで吸わない
- ・たばこはいつも決まった場所で吸う
- ・吸い終わったら火が消えたか確認する

問い合わせ：本別消防署 ☎ 22-2007



毎年、全国各地で多くの火災が発生しています。その火災の半数以上が住宅の火災です。本別町内の火災は過去5年間、増加傾向にあり、(表)、平成29年は9月末までに8件の火災が発生。うち住宅火災は4件です。寒さが増し、ストーブなどの暖房器具や、カセットコンロなどの調理器具を使う機会が増えるこの時期。家族の命や大切な財産を火災から守るため、日ごろから、家庭内の防火チェックをしっかりと行いましょう。



女性消防団員による防火PR



防火パレード



認定こども園ほんべつ 幼年防火クラブ

防火啓発活動を展開

悲惨な火災を防ぐため、町内では9月下旬と秋の全道火災予防運動期間(10月15日〜31日)にさまざまな火災予防啓発活動が展開されました。認定こども園ほんべつ(石田恵園長)では9月29日、避難訓練と幼年防火クラブ発足式が行われ、本別消防署の協力のもと、園児148人がスモークマシンを使った煙の中の避難を体験。続いて、同クラブの年長児33人が法被とハチマキに身を包み、市街地の事業所などを訪問して火の用心を呼び掛けました。10月16日には、同運動に合わせた防火パレードも行われ、町危険物安全協会の車両と消防車両計19台が町内約5kmを走行して啓発を実施。さらに、本別消防団(遠藤利之団長)の女性消防団員5人が、町内のスーパーやコンビニの店舗前で防火チラシを配るなど、火災予防を訴えました。

秋から冬にかけては、空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。自宅だけではなく、離れて暮らす家族に、近所の人にも「火事に気をつけて」と互いに声を掛け合い、防火の意識を高めてください。また、住宅用火災警報器は火災の発生を早期に知らせ、皆さんの命を守ってくれる大切なものです。必ず設置するようにお願いします。

本別消防署
小坂祐司署長

隣近所への声掛けと
住宅用火災警報器の
設置を

平成29年度

町スポーツ賞に

木南孝敏さん・齊藤 萌さん

文化奨励賞に1個人、

スポーツ奨励賞に1団体

今年度のスポーツ賞・文化奨励賞・スポーツ奨励賞が、10月23日の町教育委員会で決定しました。受賞者は次の通りです。

スポーツ賞



【功労の部】
木南 孝敏さん
(向陽町)

昭和38年に本別柔剣道連盟柔道部・本別柔道連盟の前身に入会し、昭和49年から現在に至るまで43年間、本別柔道連盟会長として活躍。

個人

【功労の部】
山田 英雄さん
(勇足西5)

この間、柔道連盟会長として長年にわたり本連盟の運営、発展に努力し、本連盟主催の柔道大会を開催するなど地域スポーツ振興に力を注がれている。
また、少年柔道大会の監督を務め、各種大会に出場し、東北海道大会や全十勝大会で優秀な成績を収めるなど、柔道の普及や青少年の健全育成に尽力され、本町のスポーツ振興に寄与された功績は誠に顕著である。



【優秀選手の部】
齊藤 萌さん
(西仙美里)

第72回国民体育大会冬季大会スケート競技会
スピード競技
少年女子1000m
第3位



授賞式は
11月3日(文化の日)
午前10時から
中央公民館大ホール
で行われます

教育委員会 ☎22-5111

文化奨励賞

個人

【功労の部】
山田 英雄さん
(勇足西5)

農業を営む傍ら、勇足地区をはじめ、町内の子供たちへ熱心にカルタの指導に取り組むその人柄から、平成15年に本別町学び輝く学校支援委員に就任され、学校と連携を図りながら、学校教育に関する活動にも積極的に取り組まれている。

また、平成18年には地域ぐるみの子育て支援づくりを目的に発足した「ゆうゆうサークル運営委員会」において現在も委員長を歴任され、勇足地区の子供たちの体験活動や地域交流活動を継続して企画運営しているなど、長きにわたる青少年の健全育成と本町の教育文化の発展振興に大きく寄与した功績は誠に大きいものがある。

スポーツ奨励賞

団体

【優秀選手の部】
北海道本別高等学校
剣道剣道部
(顧問：久松大樹)

第63回北海道高等学校剣道選手権大会十勝支部大会兼国民体育大会剣道競技少年の部十勝予選会
団体戦男子
準優勝
【出場選手】
前田拳心・東山優斗・高橋昌也・富田綾盛・田野拡

国民年金

国民年金保険料は 納付した全額が社会 保険料控除の対象です

その187

国民年金保険料は、所得税や住民税の申告において納付した全額が社会保険料控除の対象となります。平成29年分の年末調整や確定申告で社会保険料控除を受けられるのは、平成29年1月1日から12月31日までに納付した保険料です。控除を受けるには、社会保険料(国民年金保険料)控除証明書または領収証書など納付したことを証明する書類の添付が必要です。
平成29年1月1日から9月30日までの間に国民年金保険料を納付した人へは、控除証明書が11月に日本年金機構から送付されます。10月1日以降に今年はじめて納付した人へは、平成30年2月に送付されます。

社会保険料控除Q&A

Q 10月1日以降に控除証明書の証明欄にある「納付済額」や「見込額」以上に保険料を納めたときは、どのように申告すればいいですか？



- A 納付済額や見込額に追加で納めた保険料額を合算して申告してください。申告するときには、控除証明書と追加で納めた保険料の領収証書を添付して申告してください。
- Q 控除証明書を無くしてしまったのですが、再発行できますか？
A 再発行することは可能です。年金手帳など基礎年金番号のわかるものをお持ちになり、ねんきん加入者ダイヤル、または帯広年金事務所へお問い合わせください。

控除証明書に関する問い合わせは「ねんきん加入者ダイヤル」へ

電話 0570-0031004
(T)電話は 0316630-2525

受付期間 平成29年11月1日～平成30年3月15日

受付時間
月・金曜日 午前8時30分～午後7時
第2土曜日 午前9時～午後5時
(祝日と、12月29日～1月3日はご利用いただけません)

問い合わせ

住民票戸籍年金担当へ
022-81128

帯広年金事務所
0155-2518113

日本年金機構のホームページは
<http://www.nenkin.go.jp/>

新人戦で全カプレー! 9/30

本別ライオンズクラブ優勝旗争奪第37回東北部方面少年野球新人戦大会(同クラブ主催=砂原勝会長)が9月30日、太陽の丘野球場で開催されました。大会には、本別・足寄町から5年生以下で編成された4チーム約60人が出場。試合はトーナメント戦で行われ、選手らは、チームメートや保護者の声援を受けながら、全カプレーを繰り広げました。



軽快なリズムで披露 9/23

第46回音楽祭(町文化協会、町教育委員会主催)が9月23日、中央公民館で開催されました。文化協会会員や一般町民ら6団体3個人の総勢79人が出演し、軽快なリズムで吹奏楽やピアノ演奏、弾き語りなど日ごろの練習の成果を披露。演奏が終わるたびに、会場を訪れた約150人の観客から大きな拍手が送られました。



日ごろの運動不足を解消 9/30

町社会福祉協議会が主催する第46回本別町高齢者運動会が9月30日、町体育館で開催されました。運動会には、町内10老人クラブから113人が出場し、赤青白の3チームに分かれ、ジャンケンリレーやサイコロ転がしなど7種目に挑戦。参加者らは、チームの声援を受けながら日ごろの運動不足を解消するなど、さわやかな汗を流しました。



多賀新さん自作を語る 9/29

資料館企画展「多賀新ふるさと展」(9月26日~10月14日開催)関連事業として、多賀新さんの「ギャラリートーク」が9月29日、歴史民俗資料館で行われました。多賀さんは本別町出身の銅版画家で、現在千葉県在住。その繊細で幻想的な作品は国内外で高く評価されています。この日は7年ぶりとなる故郷での個展に合わせて来町し、約40人の来場者に、展示作品にまつわるエピソードや創作への思いを語りました。



ド迫力のラリー走行 9/17

ラリー北海道2017(アジア・パシフィックラリー選手権第5戦、全日本ラリー選手権第7戦、ジャパンスーパーラリーシリーズ第3戦)が9月17日、上押帯から美蘭別、活込間の13.79kmスペシャルステージで開催されました。美蘭別に設置された観戦エリアでは、早朝と午後の2度のステージで、道内外から訪れた観戦客の前を、ラリーカーが爆音とともに土煙を巻き上げるド迫力の走行を見せました。また、道の駅「ステラ★ほんべつ」ではラリーパークが開催され、多くのファンがラリーカーに声援を送りました。



秋といえば、芸術・文化・スポーツなど、何をするにも過ぎしやすい季節。朝晩は冷え込み、山も色づくなどすっかり秋らしくなった本別町内では、さまざまな活動やイベントが繰り広げられました。子どもから高齢者までたくさんの方が披露した日ごろの成果を紹介します。皆さんも、この秋から自分のためにかを始めてみませんか。

思い思いのペースで 10/18

本別中学校（池浦暢校長）強歩大会が10月18日に実施されました。昨年から生徒の保護者ら一般参加者も加わり、今年は足寄町里見が丘公園から本別中学校までの約16kmのコースを歩行組と走行組に分かれてスタート。また、旧仙美里中学校からのハーフコース（8km）歩行組を合わせた総勢116人の生徒らは、沿道からの声援を受けながら思い思いのペースでゴールを目指し、最後まで諦めない達成感を味わっていました。



本中吹奏楽部定期演奏会 10/14

第35回本別中学校吹奏楽部（半谷梨奈部長、18人）定期演奏会が10月14日、同校体育館で開催されました。同演奏会は2部構成で行われ、1部は吹奏楽用の楽曲を、2部ではポップス中心に繰り広げられ、8月に行われた帯広地区吹奏楽コンクールで金賞を受賞した腕前を披露。同校野球部の応援パフォーマンスの演出もあり、会場を訪れた約150人の観客から大きな拍手が送られました。同演奏会で3年生は引退となるため、部員らは全員での最後の演奏会を楽しみました。



スポーツ・味覚の秋を満喫 10/9

体育の日記念事業第5回義経の里スポーツフェスティバル（町・町教育委員会主催）が10月9日、河川運動公園芝生広場を主会場に行われました。マラソン大会は、2kmと4kmの部門に、小学生から一般まで計37人が出場。午前10時のスタートの合図に合わせて、参加者が自分の記録に挑戦する全力疾走を繰り広げました。自然・史跡探索ウォーキングには、11人が参加。森と川の舎の協力のもと、市街地の歴史的建造物を巡りながら、本別の歴史を堪能しました。会場には、ストラックアウトやキックターゲットなどのゲームコーナーのほか、地産地消コーナー、昔あそびコーナーも用意され、来場した約150人がスポーツと味覚の秋を満喫しました。



仙美里でシャル・ウィ・ダンス? 9/30

旧仙美里中学校施設等を利用する仙美里プロジェクトの事業として、チャリティーパーティーダンスまつりin仙美里（ダンス倶楽部仙美里主催＝永井純子代表）が9月30日、同校体育館で開催されました。会場では、パーティーの参加者らが音楽に合わせて思い思いに踊ると、アマチュア選手や社交ダンス教室指導者が、タンゴなどのスタンダード演技や、チャチャチャなどのラテン演技を披露。町内外から来場した約150人は、選手らの華やかな演技に息を呑みながら、雰囲気を楽しみました。



子供たちが全国大会等に出場します

本中の歌住さんKWB全国大会へ 10/4

北海道大会で優勝し、10月7日～9日に千葉県で行われる第12回U-15全国KWB野球秋季大会に十勝選抜選手として出場する本別中学校3年の歌住惇さんが10月4日、町教育委員会で中野博文教育長にあいさつをしました。歌住さんは北海道大会では投手・打者の両方で活躍し、チームの勝利に大きく貢献。「全国大会でも頑張ります」と意気込みを語りました。

全国大会では1回戦を突破。2回戦は1点差で惜敗しましたが健闘しました。



本別中央ジャンプが道東大会に臨む 10/16

帯広地区大会で3位に入り、11月4日～5日に釧路町で開催される北海道小学生バレーボール大会道東大会に出場する本別中央ジャンプ少年団（鈴木充代表指導者）の団員8人が10月16日、町教育委員会を訪れ、中野教育長に大会出場を報告しました。主将の山本実結選手は「6年生は最後の大会。悔いの残らないよう大会まで練習を頑張ります」とあいさつ。中野教育長は「チームワークで、息の合ったプレーを目指してください」と激励しました。



勇足で小中合同体カテスト 10/13

勇足中学校（阿部立校長）と勇足小学校（濱田和光校長）の合同体カテストが10月13日、勇足中学校体育館で実施されました。両校では、子供たちの体力の更新が目に見えやすいよう年2回実施しており、今年度は4月と10月に開催。小学4年生から中学3年生の計44人が20mシャトルラン、上体起こし、反復横跳びの3種目を行い、周りからの声援を受けながら体力の限界に挑戦しました。



本高吹奏楽部が定期演奏会 10/1

第34回本別高等学校吹奏楽部（篠田亜美部長、20人）定期演奏会が10月1日、中央公民館で開催されました。演奏は2部構成で行われ、「マーチ・スカイブルー・ドリーム」で開演。パート紹介をはさみながら、アンコールを含め13曲を披露し、4月から多くの町内イベントやコンクール、高文連主催の音楽発表大会で演奏してきた成果を出し切り、約150人の来場者は、心温まるステージに大きな拍手を送りました。



秋の交通安全運動2017

日没時間の早まりによる視界不良や、収穫期による大型車の交通量増加に伴い、交通事故が増えるといわれる秋。町内では、悲惨な事故を1つでもなくそうと、秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）期間に合わせ、各種団体や学校などが交通安全集会や交通安全キャンペーンを行い、ドライバーや歩行者へ交通安全の徹底を呼び掛けました。これから冬に向け、積雪や凍結など道路状況が悪くなることが予想されます。町民一人ひとりが交通ルールを今一度確認し、悲しい事故のない安全安心な社会を目指しましょう。



スピードダウン願ひ、300人が旗

町交通安全推進委員会（会長＝高橋正夫町長）が主催する秋の交通安全街頭啓発「人の波運動」が9月22日、開かれました。役場前での開会式の後、約300人の参加者は北1丁目～北4丁目の国道242号線沿いに移動し、「スピードダウン」と書かれた黄色い啓発旗を振りながら、行き交う車両に交通安全を呼び掛けました。

交通安全キャンペーン



商工会女性部 9/25



老人クラブ連合会 9/21



交通安全母の会 9/26



北海道警友会十勝支部本別地区 9/25



柏木町自治会婦人部 9/27



交通安全タスキリレー 9/27



本別中央小交通安全教室 9/26

本別中央小学校（山川修校長、221人）全校児童を対象とした交通安全教室が9月26日、同校体育館で行われ、児童らが本別警察署員を講師にDVDを見ながら自動車に乗るときの注意や、正しい自転車利用の方法などを学びました。

9月21日に老人クラブ連合会（小川健次会長）の会員40人が、同25日には商工会女性部（新津直子部長）の部員7人と、北海道警友会十勝支部本別地区（坂井久恵地区長）の会員9人が、同26日には交通安全母の会（田西喜代会長）の会員4人がそれぞれ北8丁目ふれあい公園で交通安全キャンペーンを行いました。同27日には、本別地区交通安全協会（長谷川隆司会長）が本別・足寄・陸別町の三町で交通安全タスキリレーを実施。同公園で引き継ぎ式も行われ、長谷川会長が足寄町からタスキを受け取ったあと、本別町交通安全協会（長谷川隆司会長）の朝日基光副会長が参加者を前に決意表明を読み上げました。最後は柏木町自治会婦人部（澤田京子部長）とともに、計約30人で交通安全キャンペーンを行い、道行く多くのドライバーに安全運転を訴えました。

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』 に基づく健全化判断比率等を公表します

町のホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/> でもご覧いただけます

『地方公共団体の
財政の健全化に関する法律』
の規定により毎年度地方公共団体の
決算状況を連結ベースで財政分析する、
健全化判断比率等の算定および
公表が義務付けられています。

地方公共団体の財政の 健全化に関する法律とは

これまでの自治体再建法制度では、地方公共団体の普通会計において赤字額が標準財政規模の20%（都道府県は5%）を超えるとききなりレックカードが出て財政再建団体となり、イエローカードともいえる注意喚起の段階がありませんでした。また、特別会計や企業会計にいくらか累積赤字があっても財政再建団体とはなりません

この法律では、「早期健全化」と「財政再生」の二段階で財政悪化をチェックするとともに、特別会計や企業会計もあわせて連結決算により地方公共団体の財政状況をより明らかにしようとするものです。

○財政再生団体（レッドカード）の前に、早期健全化団体（イエローカード）の段階が設けられました

○地方公共団体の本体に公営企業・一部事務組合・第三セクターなども加えて判断するようになりました

○単年度の現金収支に加えて、過去からの累積に基づく基準ができました（将来負担比率）
○公営企業の経営に関して、経営の健全化を促す基準ができました（資金不足比率）



早期健全化団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが早期健全化基準を上回ると、財政健全化計画の策定（議会の議決）、外部監査の要求が義務付けられ、計画の実施状況を毎年度議会に公表し、早期健全化が著しく困難と認められるときは知事から必要な勧告が行われます。
（平成20年度決算から適用）

財政再生団体になると

健全化判断比率指標のいずれかが財政再生基準を上回ると、財政再生計画の策定（議会の議決）、外部監査要求の義務付け、計画の実施状況の報告、公表に加え、財政再生計画を総務大臣に協議し、同意を求めなくてはなりません（※1）。また、財政運営が計画に適合しないと認められる場合等において、予算の変更等が勧告されます。
（平成20年度決算から適用）

※1 同意がなければ、災害復旧事業費等を除く地方債の起債が制限されます

経営健全化基準について

早期健全化基準に相当するもので、各公営企業会計の資金不足比率が経営健全化基準を上回れば経営健全化計画の策定が義務付けられます。
（平成20年度決算から適用）

健全化比率の 一般家庭でのイメージ

私たちの1年間の家計に例えると、日々の生活における収入と支出の状況や、現在の借入金と貯金のバランスを比率化したイメージとなります。

例えば、二世帯住宅で暮らすAさん夫婦世帯（一般会計）、息子さん夫婦世帯（企業会計）を本別町に例えた場合、

◆**実質赤字比率**
Aさん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額が家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆**連結実質赤字比率**
Aさん夫婦世帯、息子さん夫婦世帯の1年間の収入と支出の結果、赤字だった場合、その赤字額が家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆**実質公債費比率**
家族全員の1年間の住宅取得や自動車購入などの返済のうち、Aさん夫婦世帯が負担した返済額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。

◆**将来負担比率**
家族全員の住宅取得や自動車購入などの借入金残高など、Aさん夫婦世帯が将来負担を予定している費用から貯金を差引いた額が、Aさん夫婦世帯の家計規模に対してどの位の割合だったのかを表します。



平成28年度決算に基づく本別町の 健全化判断比率および資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項および第22条第1項の規定により、本別町における平成28年度決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率について公表します。

1 健全化判断比率

平成28年度本別町各会計の決算に基づき健全化判断比率を算定したところ、下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準、財政再生基準を下回りました。

指 標	本 別 町		早期健全化基準	財政再生基準
	平成28年度	平成27年度		
実質赤字比率	- %	- %	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	- %	- %	20.0%	30.0%
実質公債費比率	8.7%	9.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	20.1%	20.6%	350.0%	

※実質赤字比率または連結実質赤字比率は、それぞれ赤字額がないため「-」で表示しています

2 資金不足比率

各公営企業会計における資金不足比率については、平成28年度決算において資金不足を生じた公営企業がないため、該当ありません。

会 計 の 名 称	本 別 町		経営健全化基準
	平成28年度	平成27年度	
水道事業会計	- %	- %	20.0%
国民健康保険病院事業会計	- %	- %	
簡易水道特別会計	- %	- %	
公共下水道特別会計	- %	- %	

※資金不足比率は、資金不足額がないため、「-」で表示しています

○健全化判断比率および資金不足比率については、監査委員の審査に付した後、その意見を付して、10月3日開会の第3回定例町議会に報告いたしました。

★展示コーナー★

午前9時30分～午後3時30分

- ・社会教育事業写真展示・ミッチェル写真展
- ・本別高校紹介パネル展・学校行事紹介パネル展
- ・ほんべつっの給食写真展

★ちびっこフェスタ★

無料!

クラフト&ミニゲームコーナー

午前10時～午後1時

- ・「ゴッド・アイ」～インディアンのお守りづくり
- ・「アイロンビーズ」～かわいいアクセサリづくり
- ・いろいろゲームコーナー
- ・アイヌ文様切り絵・ぬりえ・アイヌ語で遊ぼう!

こどもライブ! 「おんがくのじかん」

午後1時 ノリノリこどもカラオケ! (家族参加大歓迎)

～公民館大ホールで歌ってみよう!～

対象: 幼児～高校生・ご家族(マイク4本まで!)

受付: 当日午後1時～午後1時50分(先着10人程度)

音源: カラオケDAM使用(映像・歌詞字幕付き)

午後2時 民謡

歌手/丑若美羽さん(勇足中1年)

篠原梨世さん(本別高2年)

午後2時10分 本高中生バンドミニライブ

演奏/本高中生バンド「FUTURE JENE」

午後2時50分 小中学校合同吹奏楽演奏

演奏/本別ジュニアプラスアンサンブル

本別中学校吹奏楽部

午後3時30分 終了

★ロビーイベント★

午前10時 ぶっくるカフェ(午後1時30分終了)

*コーヒー・ジュース 各120円

ぶっくるギャラリー

ぶっくる読み聞かせライブ

午前10時30分 こどもお茶席(正午終了)

*お茶菓子100円

★バザーコーナー★

午前11時～午後1時30分(売り切れ次第終了)

*元氣くんカレー(300円) *マンゴーミルク(100円)

*ポップコーン(無料)

問い合わせ 本別町中央公民館 ☎22-5111

平成29年度 ほんべつっ学びフェスタ2017

～まなんでつくるひととまち～

『ほんべつっ学びの日』の趣旨や学びの取り組みについて、子どもから大人まで理解を深めるために、「四つの風」をまちの中に吹き渡らせ、学びの輪を広げよう! 当日はさまざまな体験や発表を通じて学びの輪を広げるために、小さなお子さんから大人まで誰もが楽しめるプログラムをご用意しましたので、多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

とき 12月2日(土)

午前9時30分～午後3時30分

ところ 中央公民館

主催 ほんべつっ学びフェスタ実行委員会

◆オープニングイベント

午前9時30分

★開会式

★中学生意見発表

「向き合う」 本別中学校3年 内田里穂さん

午前10時

★実践発表「勇足地区コミュニティ・スクール」

～地域とともにある学校づくりを目指して～

午前10時30分

★ニュースポーツ体験「ティスコン」

小学1年～6年生対象スペシャルイベント

午前9時30分～午後1時30分

無料!

だがしや楽校

「だがしや楽校」は子どもが働いて、子ども通貨「ピース」を稼ぐ仕事を学ぶ場です。稼いだピースをつかって「だがし」を買うことができる子どものための子どものお店です。今回は学びフェスタでいろいろなお手伝いをします。参加希望の方は当日、時間内に中央公民館内にある「キッズハローワーク」へお越しください。

- 1 参加受付**
(キッズハローワーク)
●保護者といっしょにまずは受付をしてね!
●どんなお仕事があるのかな?
●受付が終わったら、参加証をもらってね!
- 2 お仕事準備**
(説明・準備)
●スタッフの人から、お仕事の役割をしっかりと聞いてね!
●時間になったらボランティアスタッフと一緒に、いよいよお仕事に出発!!
- 3 お仕事体験**
(20分程度/回)
●お仕事を手伝いするお店等について、まずは元気にあいさつしよう!
●終了したら、お店の人に参加証のサインをもらってね!
- 4 ピースをもらおう!**
●みんな、おつかれさま! 受付にもどって、スタッフに参加証をかえて、ピースをもらおう!
- 5 お菓子を買おう!**
●お仕事をして稼いだピースで好きなお菓子を買おう!
●たくさんお仕事をしてピースを稼いであら、お菓子を買っていいよ!

各学校の手作りページ

HELLO 仙美里小学校

校長：高瀬 悟史 児童数：33人
教職員：13人 PTA戸数：23戸



6月23日 バス遠足

音更町の公園へ。芝生をかけまわり、水とたわむれ、大はしゃぎの日でした。



7月20日 搾乳体験学習

学校近くの酪農家さんで、命と食のとても貴重な学習をさせていただきました。



8月31日 農園活動

秋の実りの大収穫！きらめきフェスティバルで手書きのメッセージカードを添えて販売体験もしました。



学
校
像

目
指
す

子どもも教師も輝く
「活力ある学校」

今年度の仙美里小学校の児童数は33人です。
転入生の仲間も増えて、全校仲良く、何事にも前向きに一生懸命取り組んでいます。
子ども同士、教職員、そして、地域・保護者の皆さんが、笑顔で親しくふれ合う姿がたくさん見られる、ぬくもりあふれる学校です。



5月15日 交通安全教室

かくれんぼではありません。運転席からどれだけの死角が生じているかの実験中なのです。気を付けないと…



6月3日 大運動会

とにかく寒い！寒い！の運動会でしたが、頑張り感動につつまれました。



6月7日 農園活動

JA青年部のお兄さんたちが、やさしく心をこめて植え方を教えてくださいました。

ほんべつ学びの日夢風事業・本別町ふるさと寄付金事業

本のまち夢づくり講演会

本のまち夢づくり講演会（町・町教育委員会主催）が10月17日、中央公民館で行われ、児童文学者で詩人の矢崎節夫さんが「世界に広がるみすゞさんのまなざし～みんなちがって、みんないい～」をテーマに講演しました。

みすゞの詩から広がる、言葉の大切さ



児童文学者・詩人
講師 矢崎節夫氏

矢崎さんは、山口県長門市にある大正時代の童謡詩人金子みすゞ記念館の館長で、みすゞの詩や生涯を調査・研究することにも、みすゞに関する多数の童謡集を出版している詩人。
講演会では初めに、図書館ボランティアがみすゞの会員の5人が日本語で、町内の英語講師荒井満菜さんが英語で金子みすゞの詩5作品を朗読し、みすゞの世界へ来場者を引き込みました。続いて登場した矢崎さんは、金子みすゞの生涯と作品が英語版絵本「ARE YOU AN ECHO? (こたえしようか)」としてアメリカで出版されてお

り、中国では教科書にも掲載されるなど、海外から大きな注目を集めていると紹介。さらに、みすゞの人物や生まれ故郷、詩に込められた思いを解説し、詩から広がる、みすゞが大切にしていた言葉の魅力と人間の優しさ、誰かと寄り添うことのすばらしさを熱く語りました。
最後は、「どんな時もある」と私、どちらも大切だと思ふことをいつも心の中においてほしい」と締めくくりに、町内から詰め掛けた約100人の来場者から温かい拍手が送られました。

「世界に広がるみすゞさんのまなざし
～みんなちがって、みんないい～」

子供たちもみすゞの世界へ



10月18日には、本別中央小学校で矢崎さんの出前授業も行われ、町内3小学校の5・6年生児童108人が、金子みすゞの詩の世界に触れました。



上) 詩を朗読した6人。豊かな表現で読み上げました



下) 会場内に設置された金子みすゞ作品コーナー

中学生が豊かな表現力で発表

10 6

第46回本別町英語暗唱・意見発表会が10月6日、町体育館で開催されました。英語暗唱には町内中学校の代表12人が臨み、それぞれが豊かな表現力と堂々とした態度で発表。審査の結果、齊藤翼さん（本別中3年）と松本侖美さん（同2年）が最優秀賞を受賞しました。この他、意見発表では「向き合う」をテーマに、自分と向き合い親への感謝の気持ちを語った内田里穂さん（同3年）が最優秀賞を受賞しました。

本別町英語暗唱大会



防火・防災の意識を高める

10 4

町防火管理者連絡協議会（宮崎統会長）と町危険物安全協会（伊藤英昭会長）による合同視察研修会が10月4日、釧路市民防災センターで行われました。研修会では、起震装置による震度7を想定した地震体験や、火災発生による濃煙内での避難訓練などを実施。また、道内で初めて導入された災害図上訓練システムを利用し、本別町の地図を使って災害を想定した避難経路や避難計画を検討するなど、参加した10人はあらためて防火・防災の意識を高めました。



青パト出動式で、いかのおすしダンスを披露

10 11

全国地域安全運動（10月11日～20日）に伴う青色回転灯防犯パトロール隊（石山憲司隊長）出動式が10月11日、本別警察署で行われました。出動式では、住民の防犯意識の向上を目的に、本別中央小学校の1・2年生の児童9人と同署の署員6人が「いかのおすしダンス」を披露。知らない人について「いかない」、知らない車に「乗らない」を歌に合わせて元気いっぱい踊りました。続いて、松谷剛署長のあいさつと出動申告のあと、パトカー2台と同隊の車両5台が同署を出発。町のスーパー前で啓発活動も行い、地域へ防犯の呼び掛けました。



教育のあり方、先生も学びあう

10 5

本別町学校教育振興会と町教育委員会が主催する平成29年度本別町教育研究大会が10月5日、本別中学校で行われました。この研究大会は、町内の教職員が一堂に会し、教職員の力量を高め合うことを目的に毎年実施。同校では4学級で授業が公開され、本別高校を含む町内の教職員約100人が見学しました。授業公開後は、6部会で分科会も行われ、参加した教諭らは、日ごろの課題解決等への取り組みなどを意見交換し、教育のあり方について学びあいました。



健康長寿のまちづくり会議

10 2

健康長寿のまちづくり会議（井出壬午会長）が10月2日、総合ケアセンターで開催されました。この会議は、福祉でまちづくりを進める本別町の保健福祉施策に対し、町民、関係機関が連帯しながら、さまざまな事業の調査・審議を行うもの。今年度1回目のこの日は、初めに高橋正夫町長から出席委員20人に委嘱状が交付され、役員改選では、井出会長が選出されました。続いて、町担当者から平成28・29年度の事業執行状況等について報告があったほか、3件の議事について、活発な議論が行われました。



栄町自治会で避難訓練

9 24

栄町自治会（高木幸夫会長）の避難訓練が9月24日、同自治会で実施されました。同訓練は震度6強の地震を想定して行われ、屋外拡声器から避難勧告の呼び出しがなされると、住民は自宅の火気を点検してから、速やかに徒歩で栄公園に集合。福祉ネットワーク協力員は要援護者の安否を確認し、各班長から避難者の人数などが報告されました。会場では、毛布を使った応急担架作りや、負傷者の運搬、消防職員の指導により消火訓練が行われるなど、約90人の参加者は真剣なまなざしで防災意識を高めました。



夜光反射材デザインで優秀賞

10 3

北海道警察本部が募集した夜光反射材デザインコンテストで勇足中学校3年の二瓶未央さんの作品が優秀賞を受賞し、同本部の感謝状伝達式が10月3日、同校生徒総会のなかで行われました。同コンテストは夜光反射材の利用促進により、歩行中の交通事故防止を図るため実施されたもの。道内外から547点の応募があり、このうち5点の優秀賞に管内で唯一選ばれました。二瓶さんの作品はピンク色のネコをデザイン。「暗い場所での交通事故が多いと聞き、夜光反射材が少しでも事故防止の役に立ってほしい」と願いを込めて話しました。



大きなサツマイモ、みつけた！

9 29

勇足保育所（26人）のサツマイモ掘り体験が9月29日、町内の齋藤徳夫農場で行われました。同農場では昨年度から自家用に紅あずまなどのサツマイモを試験的に栽培しており、齋藤さんが地域の子供たちに喜んでもらおうと企画したもの。この日は、十勝農業改良普及センター職員や町モモンガの森林（もり）会員などが協力し、スコップなどで掘りやすく処理した後、幼児らは自分の顔よりも大きなサツマイモをみつけて何株も掘り取り、秋の収穫を楽しみました。



本別高校生 職場体験へ 10 17・18

10月17日、18日に本別高校（佐藤 渉校長）の1年生38人が本別町内16の事業所や飲食店などで、職業体験を行いました。この体験は、社会で働くとはどういうことかを学び進路実現をするための学習の一環として取り組まれたもの。自動車整備場を訪れた奥村亮介さんと五野井嶺さんは、自動車整備士の社員に教わりながらタイヤ交換や洗車などを緊張した表情で作業しました。2人は「大好きな車に囲まれて作業が楽しかった。また、お客さんの安全を守るために車を整備しているところがすばらしい仕事だと思った」と語りました。

※この記事と写真は、職業体験で役場を訪れた本別高校1年の小林開さんと井出望友さんが取材し書いたものです



鬼退治にまく豆、収穫しようぜ！ 10 15

本別町商工会青年部（池田圭吾部長）と本別町農協青年部（若林健一部長）が主催する「まく豆作ろうぜプロジェクト」の収穫作業が10月15日、町内仙美里地区の専用大豆育成地で行われました。5月に種をまいた同育成地では大豆が収穫期を迎え、町内から参加した幼児や小中学生らが手回りに挑戦。両青年部の指導を受け、慎重に鎌を使って大豆を刈り取り、二オ積み体験しました。また、乾燥の進んだ大豆の一部は手作業で脱穀まで行うなど、参加した子供たちや保護者、両青年部など約80人は、育てた大豆で鬼退治を行う「ほんべつ豆まかナイト」の開催を心待ちにしていました。



おいしさは地産 農大市開催 10 21

北海道立農業大専校（友成公士校長）で学生が生産した農畜産物を販売する農大市が10月21日、同校体育館で開かれました。学生らは同校で育てられた黒毛和牛の畜産物、ながいもやカボチャ、ねぎ、豆類などの農産物、かぼちゃパンやソーセージなどの加工品を、それぞれ3ブースに分かれて販売。時折、来場者から食べ方など質問されると、緊張しながらも丁寧に説明しました。このほかテントブースでは牛肉や牛乳、フライドポテトなどの試食コーナーやパレイショ、タマネギの詰め放題コーナーが設置され、約200人の来場者は秋のイベントを楽しみました。



いきいき商品券 4,000セット完売 10 17~

本別町商工会による「くらし応援いきいき商品券」の販売が、10月17日から町商工会で行われました。今回の商品券は、1セット11,500円分の商品券を10,000円で購入できる15%のプレミアム付きで4,000セットを発行。販売開始前から多くの人が行列をつくり、18日の午前中に完売しました。



本別公園内に ツツジ235本を植樹 10 15

第12回二トリ北海道応援基金「本別町町民植樹祭」（町・町観光協会主催）が10月15日、義経の里本別公園で行われました。この植樹祭は、同基金の助成を活用して実施されたもので、一般のほか、町自治会連合会や本別町林業グループなどから計約50人が参加。開会式では、初めに高橋正夫町長が「来年以降、これまでよりも多くのエゾムラサキツツジが咲き誇る公園をイメージしながら植えていただきたい」とあいさつし、参加者らは、用意されたツツジ235本を丁寧に植え付けました。



本中生、職業人から学ぶ 10 11・12

本別中学校（池浦暢校長）の2年生45人が10月11日、12日の2日間、町内外24か所の事業所で職業体験学習を行いました。同学習は、さまざまな職業の社会的役割や意義を理解し、進路選択の能力を高める目的で実施されたもの。町内の飲食店では、坂井智さんと伏見翔哉さんが接客や配膳などを体験し、「最初は緊張したけれど、だんだん楽しく作業できるようになりました」と忙しい中でも笑顔で取り組んでいました。

※この記事と写真は、職業体験で役場を訪れた本別中学校2年の加藤絵里さんと松本伶美さんが取材し書いたものです



火災予防の願いを標語・ポスターに込めて 10 12・13

平成29年度防火標語・防火ポスターコンクールの表彰式が10月12日・13日に町内3小学校で行われました。このコンクールは、本別町防火管理者連絡協議会（宮崎統会長）、本別町危険物安全協会（伊藤英昭会長）が本別ライオンズクラブ（砂原勝会長）の協賛を得て実施したもので、町内の小学校4年生から6年生を対象に防火標語と防火ポスターを募集。標語70編、ポスター111作品の応募の中から、標語6編、ポスター10作品の入賞が決定しました。表彰式では、宮崎会長らが児童一人ひとりに賞状などを手渡し、児童らは喜びの表情を浮かべていました。これらの入賞作品は、防火標語・防火ポスター展として10月16日から26日まで中央公民館ロビーに展示されたほか、ポスターの部本別ライオンズクラブ会長賞の作品はポスターとして印刷され、町内各事業所に掲示されています。入賞者は次の通り（敬称略）。



本別中央小学校

【防火標語の部】

本別町危険物安全協会会長賞＝「小さな火 過去と未来を もやしてく」佐藤奏名（本別中央小4年）
 本別ライオンズクラブ会長賞＝「ガス消した？ 料理の後の 再確認」福地優香（仙美里小4年）

【防火ポスターの部】

本別町防火管理者連絡協議会会長賞＝笠原 来（本別中央小4年）
 本別町危険物安全協会会長賞＝森住 駿（勇足小6年）
 本別ライオンズクラブ会長賞＝山下龍星（勇足小6年）

みんなの健康

399

今回は「総合診療」、「プライマリ・ケア」、「家庭医療」、「かかりつけ医」などについて書きました。今

回は、私が
なせ総合診
療（家庭医
療）を専門
に選択した
かについて
書きたいと
思います。

私は自治医科大学を卒業したため、へき地での勤務の義務がありました。医師になって8年目で、2年間ほど医師1人の診療所に勤務しました。それまでは外科を専門にしていたので、初めて内科を診ることにになりました。その際に、高血圧症や糖尿病など、よくある病気を「ガイドライン」といわれる教科書を参考にしたり、また専門

総合診療、 わたしが学んで きたこと

「自分は何かにかかれたい」と思っている人には、ぜひ当院でご相談していただければ幸いです。
※「総合診療」について、10・11月号の2回にわたり掲載いたします



本別町国民健康保険病院 院長 一 武田 真

の先生に相談したりして診療をしていました。いよいよへき地での義務が終わる際、よくある病気を外科や内科に関わらず診療できたら、例えば患者さんも待ち時間が少なくなるのではないかと、たくさん医療機関を受診しなくても済むのではないかと、札幌市で専門医をとるべく勉強するきっかけになりました。

「外科も内科もかかっている。でも、待ち時間が長い。一度に診察が済めば」と思っている人や、



北 糖 藤 井 紫 穂 (こむぎ) (あざのほ)

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に囲まれてくわすの元気で言っ
てね!

未来に輝く 子どもたち



※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

ご寄付ありがとうございます 平成29年9月16日から10月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

★本別町国民健康保険病院医療施設等整備基金
金 100,000円 上押帯 今野 一 泉
個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金 3,015,000円 215人

副町長就任・退任ごあいさつ

本別町議会第3回定例会で10月13日、副町長を選任する議案が提出され、総務課長の大和田収氏が副町長に選任されました。平成17年から3期12年にわたり副町長の任にあたった砂原勝氏は10月29日、任期満了により退任いたしました。



就任のごあいさつ

本別町副町長
おおだ 収 氏

このたび、議会の同意をいただき、副町長に就任いたしました。今、地方自治体が抱える課題は多様・多難であり、本当の意味での正念場を迎えています。本町においても自主・自立のまちづくりを目指して、議会や関係団体等の皆様と連携を図りながら、職員一丸となって取り組むことが私の役割です。もとより微力ではございますが、高橋町長のもと、誠心誠意努めてまいりますので、町民の皆様のご支援とご指導を賜りますよう心からお願いし、ごあいさつとさせていただきます。
任期：平成29年10月30日～平成33年10月29日



退任にあたって

前本別町副町長
すなはら 勝 氏

このたび、副町長の職を退任いたしました。顧みますと、昭和41年に本別町に奉職以来、52年にわたり町政の一端を担わせていただき、高橋町長はじめ議会の皆様、町民の皆様のお力添えにより、職務を終えることができましたことは、皆様のご指導とご厚情によるものであり、心から感謝申し上げます。今後は一町民として、郷土本別町の限らない発展を願うと共に、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、退任のごあいさつとさせていただきます。
任期：平成17年10月30日～平成29年10月29日

銀河ホップ・ステップ・ジャンプ

足寄町

第38回

足寄町女性のつどい

フリーキャスターの堀尾正明氏を招いての基調講演のほか、赤十字バザールや特産品販売なども行います。となたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

日時 11月26日(日)
午前10時～午後3時

会場 足寄町民センター
内容 開会式・オリエンテーション
午前10時～

午前10時30分
公演 北海道179町村巡り！
「桂三段 落語会」
午後1時～
基調講演
「近所から始まる!!男女共同参画
「まちで輝く女と男」
講師 堀尾 正明氏
フリーキャスター

午後2時30分～閉会式
参加料 無料
その他 昼食(700円)や託児所を
希望する人は11月14日(火)
までに申し込みください

お問い合わせ
足寄町教育委員会生涯学習室
☎2513188

陸別町

驚き！おもしろ 科学実験2017

実験やミニ講演会など、子どもから大人まで楽しめる内容です。皆さんの来館をお待ちしております。

日時 11月11日(土)
午後1時～午後6時

会場 陸別町民センター
内容 開会式・オリエンテーション
午前10時～

ところ 銀河の森天文台
(陸別町宇遠別)

内容 午後1時～午後6時
実験コーナー
午後2時～

ミニ講演会「宇宙の現場取材して」
講師 イー・ティメーション代表
安藤良美氏

お問い合わせ
銀河の森天文台
☎2718100

本のある暮らし

あいがこ

200

本のまち 未来につなぐ 読書の輪

戸籍のまど

お誕生

9月後半から
10月前半の
届出分

富川 澄士きよと 寛弘かんひろ 眞理まこと 9/19 柏木町
穴戸 里帆りほ 謙介けんけい 旬子しゅんこ 9/25 弥生町

ご結婚

(大久保 悟 志さと 北8丁目
上山 智美ちみ 北8丁目

おくやみ

新津 逸子よしこ 92歳 9/17 向陽町
山田 トシ工としこう 84歳 9/19 奥仙美里
今野 貞信さだのぶ 95歳 9/21 上押帯
戸田 徹ととる 77歳 9/24 北8丁目
蓑島 紗世さよ 10歳 9/25 活込
樋口 昭あきら 89歳 9/26 錦町
秋津 廣美ひろみ 84歳 9/27 南1丁目
小野田 勝美かつみ 72歳 10/3 新町
小野 絹代きぬよ 50歳 10/6 向陽町
山下 ハルはる 90歳 10/7 北4丁目
真田 美智子みちこ 85歳 10/10 チエトイ1
小野 登美子のぶみこ 82歳 10/11 栄町
加藤 ミネ子みねこ 88歳 10/12 勇足西5
吉田 輝俊てるとし 90歳 10/12 柏木町



2001年4月号から始まった「本のある暮らし」コーナーが、おかげさまで200回。紙面を通して皆さんの生活に「本とのふれあい」をお届けしてきました。さまざまな読書の楽しみ方、本との出会いがこれからもっと広がりますように!

わたしたちのまち

前月比
人口 **7,300人(-24)**
男 **3,587人(-12)**
女 **3,713人(-12)**
世帯数 **3,715戸(-10)**
〔9月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称:ぶっくる一丸)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

◆2017図書館フォトメドレー◆ ①本別中央小図書室分室オープン ②ふるさと歴史事典 ③はらぺこあおむしはり絵ワークショップ ④ファーストブック絵本作り ⑤展示コーナー「ほんべつ寄席特集」 ⑥シカ館をならそう! ⑦こども園「としよかんえほんばこ」貸出開始 ⑧ぶっくるカフェ ⑨ぶっくる読み聞かせ ⑩ぶっくる手作りのぬいぐるみ